

12. 大学として取り組んでいる連携事業

12.1 超少子高齢化地域での先進的がん医療人養成

実施団体名

超少子高齢化地域での先進的がん医療人養成

：金沢大学、金沢医科大学、福井大学、富山大学、信州大学、石川県立看護大学

概要

北信がんプロの実施内容として、1) 6大学の強みを生かした最先端がんゲノム医療、小児・AYA世代・希少がんの集学的治療、ライフステージに応じたケアを大学の枠を超えて学習できる、共通科目や単位互換を導入した相互補完的教育コース（本科10、インテンシブ9）。2) テレビ会議システムを発展させた、北信オンコロジーセミナー、事例検討会。3) スタッフ研修として海外FD研修の実施。4) 他のがんプロ拠点や、人材育成プログラムとも積極的に連携し、国際シンポジウム、合同シンポジウムの実施。5) 市民啓発、がん教育活動の一環として患者会との連携や、北信4県の自治体、医師会、がん拠点病院と連携し、市民公開講座やシンポジウムの開催などである。本学は主に、大学院教育における、がん看護専門看護師の育成（本科生）と、インテンシブコースでの地域の医療従事者へのがんに関する知識・技術の普及である。特徴として、北陸、信州地域のがん関連病院をつないだテレビ会議システムを用いた事例検討会を実施し、がんに関心強い看護師の育成に努めることである。

12.1.1 がんプロ企画委員会

委員長：牧野 智恵 教授（附属地域ケア総合センター長）

委員：石垣教授（学長）、松本講師、大江助教、今方助教、桶作助教、瀧澤助教

事務局：西田事務局長、白山主幹兼係長、松本専門員、岡山事務員

活動内容：

1. がん看護専門看護師（本科生）の育成

がんライフステージコース（履修期間2年）に2名の申し込みがあった。修了者は1名であった。

2. インテンシブコースによるがん看護の知識の普及実施・評価

以下の2つのコースへの募集および成績判定を行った。

①がんライフケアコース

看護師、薬剤師、医師、理学・作業療法士、ソーシャルワーカーを対象としたコースで、今年度は、受け入れ目標5名に対して、6名が申請した。

②看護師インテンシブAコース

がん看護CNSの申請を予定している方や、すでにごん看護CNSの資格を持ちその更新を予定している方を対象としたコースで、今年度は1名の申し込みがあった。

コース名	職種	受入目標人数						受入実績					
		H29	H30	R01	R02	R03	計	H29	H30	R01	R02	R03	計
がんライフステージ	看護師	0	2	2	2		6	0	1	3	2		6
がんライフケア	他職種	2	5	5	5		17	3	10	9	6		28

3. がんプロ企画の実施と評価

今年度は、2種類の事例検討会と、2つの公開講座を実施した。

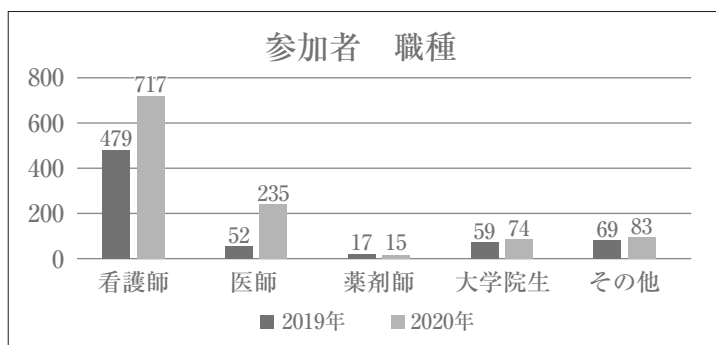
1) ライフステージ事例検討会およびCNS関係者によるがん看護事例検討会企画・評価

① ライフステージ事例検討会の実施

今年度は、各病院が新年度から新型コロナウイルス感染拡大を予防する観点から、多数が集まる会議等を中心していたことから、開催方法を、個人のパソコンからもセキュリティを駆使し参加できるようにした。その結果、今年度の参加者は、計1124名（昨年度679名）と約2倍の参加者数となった。また、医師の参加者数は235名（昨年度52名）と4倍近い増加になっており、医師からの質問も多く、効果的な事例検討会が開催できた。開催方法の変更が参加者数増加に大きく貢献できた。

	2020 年度			2019 年度
	会場	オンライン	合計	
第1回	117	46	163	113
第2回	94	60	154	111
第3回	81	47	128	98
第4回	48	59	107	98
第5回	53	67	120	61
第6回	67	43	110	100
第7回	68	59	127	95
第8回	53	50	103	0
第9回	74	38	112	0

事例検討会の参加者数の前年度との比較



事例検討会への職種別参加者数の前年度との比較

②がん看護専門看護師関係者による事例検討会

がん看護専門看護師の知識と技術のブラッシュアップの目的で「CNS関係者によるがん看護事例検討会」を実施した。今年度は新型コロナウイルスによる感染拡大の予防を配慮し、対面とオンラインを用いたハイブリット型で実施した。がん看護CNS候補者から、「進行がん患者の治療選択に伴う意思決定支援に関する困難」について事例の提供があった。当日は、22名（会場8名、オンライン14名）の参加があり、北里大学病院の近藤まゆみさん（がん看護専門看護師）がコメンテーターとしてリモート参加していただいた。

2) 「臨床で行なうリンパ浮腫のケア」＜基礎編＞および＜アドバンス編＞の企画・評価

本年度は、新型コロナウイルスによる感染拡大予防の観点から、基礎編は学内での対面参加者を制限し、ハイブリット型での開催とした。

①基礎編は9月5日（土）に、富山県立中央病院の時山麻美さん（がん看護専門看護師）と、石川県済生会金沢病院の高地弥里さん（がん看護専門看護師）を講師として招き、本学にて実施した。当日は、78名（会場16名、オンライン62名）の参加があった。学内での初めての形式の開催であったため、機材等の不足のため、オンラインでの参加者にはリンパ浮腫ケアの技術を十分にお伝えできなかった。

②基礎編の1か月後、10月3日（土）に、高地弥里さんと山岸愛さん（石川県済生会金沢病院・日本医療リンパドレナージ協会上級セラピスト）を招き、これまでの基礎編に参加した人の中から定員の10名が参加した。基礎編に引き続き、より実践に活かせる内容の支援をした。

3) 北信がんプロ合同市民公開講演会の実施評価：

9月13日（日）13：00～15：30 ホテル金沢（ダイヤモンドB.C会場）にて、本学が主幹となって北信がんプロ合同市民公開講座「がんになっても自分らしい人生を過ごすために～今から家族と人生会議（ACP）を～」を開催した。新型コロナウイルス感染拡大を予防し、オンラインと対面を導入したハイブリット型で実施した。参加者数は、会場参加26名、オンライン参加者131名（YouTubeによる視聴回数約480回）となり、ハイブリット型による開催によって、ACPについて北信越地域の市民への広報ができた。

第1部は、御供田幸子さんによる「病気になっても自分らしく生きている私の人生」と武蔵野大学特任教授樋口範雄先生の「アドバンス・ケア・プランニングと厚労省ガイドライン」の講演、第2部では、北信がんプロの6大学（石川県立看護大学、金沢大学、金沢医科大学、福井大学、富山大学、信州大学）のコーディネーター6名と樋口先生とでACP実践の課題についてパネルディスカッションを行った。

4) FD・SD市民公開講座の実施・評価

2021年3月7日（日）10：00～12：30 ホテル金沢（ダイヤモンドA会場）にてFD・SD市民公開講座「AYA世代のがん体験談からその支援を考える」を開催した。主催は石川県立看護大学、福井大学、北國新聞社、共催に北陸CNSの会、後援に石川県、金沢市、石川県看護協会、テレビ金沢からいただいた。新型コロナウイルスによる感染拡大予防のため、オンラインと対面によるハイブリット型で実施した。参加者数は、会場参加者22名、オンライン参加者157名（YouTube視聴回数約380回）であった。

第3期がん対策推進資本計画のがん医療充実の分野では、AYA世代のがん医療の充実があげられており、がんプロ事業において大きな成果であったと思う。

外部報告

令和2年度事業報告書

外部資金

研究拠点形成費等補助金（がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン）

令和2年度北信がんプロ予算総額58,698千円（うちR2年度 本学配分額）4,600千円